

## 第1回防府市庁舎建設懇話会 会議録要旨

開催日時 平成26年10月1日（水） 午後6時から午後8時まで

開催場所 防府市役所1号館3階 第1会議室

### 出席者

#### 【委員】

鳩委員（座長）、古田委員（副座長）、青木委員、大村委員、岡本委員、喜多村委員、林勲委員、林 甫委員、広石委員、福田委員、山野委員、田中委員、長峯委員、水田委員

#### 【事務局】

松浦市長、吉川総務部長、岩田総務部次長、林総務課長、松村総務課長補佐、竹末総務課長補佐兼庁舎建設準備室長、沼田総務課庁舎建設準備室主任

概要（発言要旨の文書は簡略化している。）

### 1 開会

○市長あいさつ

○委員・事務局紹介

### 2 議事

○座長・副座長の選出

座長に鳩委員、副座長に古田委員が選出される。

○座長・副座長あいさつ

○会議の公開等について

会議資料1ページ、2ページにより事務局から説明。会議及び会議録の要旨の公開を決定した。

○懇話会の設置目的について

会議資料3ページ、4ページにより事務局から説明

・来年度以降、策定に着手していきたいと考えている基本構想・基本計画の中では、いろいろな意見をひとつの結論として集約していくことになるが、今回の懇話会は、その前段として、様々な立場から広く意見をいただくということが趣旨である。

**【質疑・意見等】**

なし

**○スケジュールについて**

会議資料5ページにより事務局から説明

- ・ 視察は、東広島市を予定している。
- ・ 4回の会議でいただいた意見などを報告書としてまとめたい。
- ・ 庁舎の位置を論じる前に、その前提となる条件を整理しておく必要があるので、今年度は、必要な施設の内容等についての意見などをいただくことを中心としたい。

**【質疑・意見等】**

副座長

先進地を視察するということが、実際に行くのは難しくても近隣の新しい市庁舎の資料を集めてこの会議に提出していただくということは可能か。

事務局

他市の資料を提示したい。

**○「庁舎建設の検討に係る報告書」について**

別冊「庁舎建設の検討に係る報告書」により事務局から説明

- ・ 報告書はあくまでプロジェクトチームで一定の想定に基づいて試算などを行ったものであり、市としての方向性といったものではない。

**【質疑・意見等】**

委員

示された内容を見ると現在の職員と業務を収納するような施設という感じが非常に強い。拠点としての機能という点から市役所の仕事以外の市民の交流、あるいは避難場所としての機能を含めてはどうか。東京都文京区では元々区役所であったところに区役所と文京シビックホールといった催しを行うホール等を取り入れた複合施設を建設している。例えば文化福祉会館と公会堂を解体し、ここにこれら機能も含めた市庁舎を建設するというように、庁舎のあり方や機能を考えるにあたって何を求めていくのかという視点が大事ではないか。

駐車場については、職員駐車場が敷地の全体の約半分以上を占めている状況だが、民間の企業では駐車場は各自が確保するというのが流れである。職員の駐車場についても併せて検討していく必要があるのではないか。

事務局

この報告書はあくまで市の職員のプロジェクトチームが作ったたたき台であり、これを基にどんどん意見をいただき、発展させていただきたい。又、駐車場については、職員は、駐車代を支払って利用している状況である。

- 委員 防府は人の流れがない。車で来て、車で帰ることから、流れができない。車を使わなければ公共交通機関を利用し、駅から歩くことで人の流れができる。流れを作ることがまちの活性化につながるのではないか。
- 座長 駐車場については、空間的な機能の話になる。今後3回でこの懇話会として庁舎のあり方、又は、空間的な機能を題材とするなど、ターゲットを絞って検討していきたいと思う。本日は1回目でありどんどん御意見をいただいて2回目以降はテーマを絞り、議論がしやすい形にしていきたい。
- 委員 十分に議論されないまま早く造るということはもちろん避けなければならないが、人口の減少等いろいろな意味で地域の状況を考えると、早くコンパクトシティというか、中心市街地活性化に着手していかなければならない。その中で市役所の果たす役割、インパクトは大変大きいと思う。どこまで求めるか、どれくらいお金を掛けるか等現実的なこともあるが、早期実現を目指していくことが重要である。
- もう1点は、もっと防府というまちの発信力を高めていくということが重要であるという点から、市役所というのは市の象徴的なものであるため、シンボリックであるとか、市民が市外の人に誇れ、他の市に訴えられるような、特色を持ったものを造っていかなければならないと思う。合理性を求めていくと他市と似通ったものができていくが、そこに何かを加えることが重要である。
- 商工会議所では、中心市街地の活性化について特別委員会を設置して検討しており、来年度は市の職員や専門家を交え、なんとしても押し進めていかなければならないと考えている。そういった意味でも市役所の建替えというのは極めて重要であり大いに関心を持っている。
- 座長 建設スケジュールの中で早期実現を果たすことはコンパクトシティを実現していく上で非常に効果的であり、象徴的な市庁舎であるべきだという考えは、先ほどの委員の発言の中のあり方と密接に関わってくる。様々な機能を入れると象徴性が出てくるので、その中で市庁舎のデザイン性等議論を進めていきたい。
- 委員 駅前のアスピラートからアーケードを歩いて天満宮まで続く道は、天満宮には専用の駐車場がありそこから行くため、アスピラートで流れが止まる。公会堂跡地に拠点を造れば流れができ、アーケード周辺の活性化が図られるのではないか。公会堂を解体して建てれば代替地を求める必要もなく、建替えの間、業務を続けることができる。公会堂の敷地はたぶん広くはないと思うが、ある程度高層化すれば可能で

はないか。駅からアーケード、公会堂といったエリア的に考え、中心街にいかにも流れを作るかという視点から立地場所を検討してみてはいかがか。

座長 報告書では施設の分散化が現庁舎の課題としてまとめられているが、ひとつの事例として、長岡市庁舎は駅からあえて分散的に市役所を置くことにより、人の流れを誘発し、市庁舎にオープンスペースや体育館をつくり、中心市街地の中を人々が歩くという戦略的な市庁舎の建て方をしている。分散化を戦略的にとらえるか、あるいは課題としてとらえるかによって全くコンセプトが違ってくる。

事務局 公会堂については、耐震診断の結果があまり良くなかったため耐震補強ができるかどうかの調査を今年行っている。ごく一部が悪いだけで大部分については耐震性に問題はない。

委員 敷地スペースはどの程度か。

事務局 12,000 m<sup>2</sup>ぐらいだと思います。

委員 12,000 m<sup>2</sup>くらいであれば、高層化すればその何倍かのスペースを確保できるわけで、新庁舎の広さが 18,000 m<sup>2</sup>程度であれば可能ではないか。

委員 以前、土砂災害発生時にボランティアセンターが文化福社会館の中庭に開設され、1ヶ月そこで活動した経験があり、市との連携を考えると、市庁舎に設置されるのが望ましいと感じることがあった。

座長 防災拠点を確保していくという点からも重要なので、ぜひ考慮していただきたい。

委員 国も地方も公共施設が建替えの時期を迎えており、国や県の出先機関、あるいは市・町の建物を建てる時は一体的に考えて建設すべく国が指示を出したという記事が9月21日の新聞にあった。財源の確保、いわゆる市債を立てるにしても、そういった方向性を示せば、認定が受けやすくなるといった可能性も出てくると思う。統合できるものは統合していけば市民の方も市庁舎に行けば国の手続も、県の手続もできる、といった窓口一本化が実現し、コンパクトシティの実現につながる。

事務局 庁舎の建替えについては国からの補助制度がないため、単独で作っていかねばならないという状況で、そういった方向性については、今後注視していきたい。

副座長 高齢者が外出する際に最も用事があるのが病院への通院、買い物である。先ほど、庁舎が統合されれば複数の行政手続きが完結する、とあったが、それをさらに発展させ、バスに乗って行けば、狭い行動範

囲の中で、買い物もでき、通院もでき、用事を済ませて帰ることができるといった位置付けに新しい庁舎がなればいいと思う。具体的には、駅の前にバスターミナルがあるが、駅の反対側に行きたい場合には一旦駅でバスを降りて乗り換えなければいけないといった少し不便な点があるので、市庁舎の敷地にバスターミナル機能を持たせ、生活交通網とみなさんが出かけて行きたい、用事を済ませたい施設をリンクさせ、その中の中核的な施設として新庁舎が存在すればよりよいのではないか。

座長 市役所の建替えは、50年、60年、100年先にも続いていくということを考えると、その頃かなり高齢化が進行していることが想定されるので、その時の交通のあり方というのは十分に考えて、交通インフラとの関係は重要な案件としてとらえていくことが必要である。

委員 今建設すると、これを今の子供の世代がこれから維持していかなければいけない。一般の主婦目線で言うと、市役所に来るのは子供手当をもらいに来ると以外にほとんどない。社会見学に来るなど、子供たちがもっと身近に関わり合える施設になってほしい。そのためには、市民の交流のスペースという目線、これから話し合いを進めていく中で子供の目線を入れて考えていただきたい。

もうひとつは、タクシーに乗る、バスに乗るというときに必ず考えなければいけないのは防府駅のステーションであり、その隣にアスパラート、ルルサスがあるが、1本道を入ると、昼でもゴーストタウンのような状況で、みんな車で大型商業施設に行ってお買い物をし、そのまま帰ってしまう。ステーションを少し入った先に市役所があれば、買い物もできる、周辺の医院や少し離れた病院にもバスに乗って行ける。

座長 長寿命化建築になると当然維持管理の問題も出てくる。報告書には子供といったキーワードがなかったように感じたが、これは先ほども指摘があったようにあり方につながる。市民といってもいろいろな年齢層があるので、市役所をもっと開かれたものにしていくにはどうしたらいいかを考えていく上で子供というキーワードをとらえていきたい。

委員 ルルサスに子供と親の遊ぶ場があるが、そこにお年寄りを加えるようなスペースを市庁舎につくれば世代間の交流も図れる。子供とお年寄りをそれぞれで考えるのではなく、あわせて複合的に考えることも必要である。

- 委員 　　例えば、市役所が建設段階を迎えたとき、工事現場に子供たちが社会見学に行き、出来上がればこういうスペースで遊べるよと、建設過程を着実に見せていくと勉強になるし、防府市への愛着が子供たちにわき、大きくなったらこうしようという夢が出てくるのではないか。
- 委員 　　市庁舎のあり方を考える上で、防府市の上位計画等をどのように市庁舎の建物と結び付け、どのように集約していけるかを考えることも大切である。庁舎建設というのは問題が非常に大きすぎるので、例えば、歴史をいかしたまちづくりというのがどう市庁舎と結びつくのか、あるいは景観をいかすには建物のデザインにどう取り込むのか、コンパクトシティと市庁舎、地域防災計画と市庁舎、これらをひとつひとつ整理してどのように市役所を結び付けていけるのかを具体的に検討していく方がよいのではないか。
- 座長 　　先ほど話しに出た天満宮と商店街とアスピラートの関係は、景観と歴史ということにつながってくるであろうし、病院と様々な都市機能を近くに置いて交通で結んでいくということはコンパクトシティの範疇に入ると思う。まとめ方として、歴史という点から考えるとこういうことを考えていかなければいけないのではないか、コンパクトシティとして考えるならば、こうあるべきでないかというある意味でのメッセージを懇話会としてまとめあげていくというスタンスを今後少しずつ整理して考えていきたい。
- 副座長 　　報告書の中で、面積の水準など参考文献から数値を出しているが、いつ頃の資料であるかが分かるようなリストを提示して欲しい。
- 事務局 　　次回提示する。
- 座長 　　本日は1回目ということで多岐に渡って御意見をいただいた。2回目以降は事務局とも話をしてもう少し効率的に議論ができるようにしていきたい。

### 3 その他

- ・次回は、11月11日（火）午後6時から開催する。
- ・視察は、12月17日（水）としたい。10時に市役所を出発する予定としたい。

### 4 閉会